

平成 28 年度第 2 回総合教育会議議事録

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 日 時 | 平成 29 年 2 月 7 日 (火) 午後 2 時 00 分から午後 3 時 40 分まで | | |
| 場 所 | ひかりプラザ 5 階教育資料室 | | |
| 出席者 | 構成員 | 市長 教育委員会委員長 教育委員会委員長職務代理者 教育委員会委員 教育委員会委員 教育委員会教育長 | 井澤 邦夫 富山 謙一 高橋 道子 戸塚 晃 佐久間 博美 松井 敏夫 |
| | 関係者 | 政策部長 市政戦略室長 政策経営課長 文化と人権課長 スポーツ振興課長 教育部長 教育総務課長 学務課長 学校指導課長 学校指導課統括指導主事 学校指導課指導主事 社会教育課長 ふるさと文化財課長 公民館課長 ふるさと文化財課文化財普及担当係長 ふるさと文化財課史跡係長 | 水越 寿男 島崎 進一 藤原 大 宮本 学 千葉 昌恵 本橋 信行 新出 尚三 中島 弘美 松浦 素明 三澤 巨潤 福澤 真吾 上田 晴世 高杉 強 山崎 明子 増本 佐千子 依田 亮一 野中 勝義 千田 孝一 田中 美音 |
| | 事務局 | 政策経営課 教育総務課 教育総務課 | |
| | 傍聴人 | 2 人 | |

午後 2 時 00 分開会

1 開会

○井澤市長 皆様、こんにちは。市長の井澤でございます。皆様におかれましては、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

それでは定刻になりましたので、平成 28 年度第 2 回総合教育会議を開催いたします。

2 協議・調整事項

(1) 歴史遺産を活かした国分寺市の魅力を高める取組について

○井澤市長　それでは次第に従いまして、会議を進行させていただきます。

本日の協議・調整事項は1件です。歴史遺産を活かした国分寺市の魅力を高める取組について、ご協議いただければと思っております。

平成28年第4回定例会において、市の新たな基本構想である「国分寺市ビジョン」が可決され、決定しました。国分寺市ビジョンでは、市民、事業者等とともにまちづくりを進める上での共通の目標として、「魅力あふれ ひとつつながる 文化都市国分寺」という将来像を定めました。

「魅力あふれ」には、国分寺市の特色である「水」、「緑」といった豊かな自然や、武蔵国分寺跡等の「歴史・文化」だけでなく、「ひとの温かさ」、「住み良さ」など、これまで国分寺が培ってきた多くの魅力を高め、誰もが住みたい、住み続けたいまちを目指すという意味が込められています。また、「文化都市国分寺」には、武蔵国分寺跡をはじめとする数々の歴史遺産など、これまでの歴史を受け継ぎ、「国分寺」の名にふさわしい文化の薫り高いまちを目指すとともに、新しい文化の醸成を図り、まちの魅力を発信し続けていくという意味が込められています。

本日は、国分寺の大きな魅力の1つである「歴史遺産」を取り上げ、「歴史遺産を活かした国分寺市の魅力を高める取組について」を協議・調整事項としたいと思っております。こちらにつきましては、昨年度の総合教育会議で決定した「国分寺市教育に関する大綱」の施策の方向性の1つにもなっています。

まず現状認識が必要だと思っておりますので、歴史遺産に関する現状や課題、これまでの取組について、ふるさと文化財課長より説明をお願いいたします。

○高杉ふるさと文化財課長　それでは今回、資料1-1から1-4までお配りしておりますので、こちらの確認をしていきたいと思っております。まず資料1-1、「国分寺市における文化財の保存・整備・活用について」です。A4の両面のものになります。1-2といたしまして、「武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡」の地図になります。あと1-3は「国分寺市ビジョン」、1-4はふるさと文化財課の「国分寺市ビジョン実行計画（案）」をお付けしております。この1-3、1-4に関しては、後ほど政策経営課長から説明していただきたいと思っております。

それではまず1-1に基づいてご説明を申し上げていきたいと思っております。まず（1）で「今までの取組み」をまとめさせていただいております。国分寺市内に所在する文化財を「歴史と文化のまち」である国分寺市が誇る貴重な歴史遺産として、今後、いかに保存し、活用すべきかを、国分寺市教育委員会では平成17年4月に、「市内所在文化財の今後の保存、活用について（指針）」を策定しております。その後、平成22年度に、文化財の保存や活用のために必要な措置を講じることや、歴史文化の継承や発展を図ることを目的に「国分寺市文化財の保存と活用に関する条例」を制定して現在に至っているところです。

また、史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）の保存整備に関しては、平成15年3月に、「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）新整備基本計画」が僧寺地区の整備基本方針として策定されているところです。さらには平成21年2月に「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）整備実施計画」を策定し、現実で実現可能な具体的整備（第一期整備）といたしまして、内容を決定し、平成23年度より第一期の整備工事を実施しているところです。

それでは①をご欄ください。現在の国指定史跡についてです。こちらは1-2でお示した地図と一緒に見ていただくとわかりやすいかと思っております。1-2の資料で右下に示してありますが、茶色で囲ってある範囲が史跡の指定範囲となっています。145,367.16平米が現在、国指定の史跡地の面積ということです。こちらの面積の公有化率になりますが、現在、114,208.66平米が公有化されているということで、約78.7%を公有化している状況です。

また、現在、条例上で規定している市立の歴史公園が4カ所あります。黒い四角の中に市立歴史公園と入っていますが、まず一番左の武蔵国分尼寺跡と、その上の史跡東山道武蔵路の場所と、右側に移りまして、史跡武蔵国分寺跡の崖線下の地域、そして史跡武蔵国分寺跡の僧寺北東地域が現在の歴史公園ということで、市民の皆様方に共用していただいている場所です。この面積が33,970平米となります。

また、市内の指定文化財ですが、国指定の文化財が5件あります。この中には、木造になりますが、大正3年に指定された重要文化財である薬師如来坐像や、大正11年に指定された史跡である武蔵国分寺跡附東山道武蔵路跡を含めて5件になります。また、都指定の文化財は4件です。この中には名勝である真姿の池湧水群等がございます。また、市指定の文化財としては、現在29件あります。こういったものが現状、国分寺市として保有しているものでございます。

それでは1-1の2ページ目をご覧ください。「現状の課題」ということですが、これは後ほどご説明をいただく国分寺市ビジョン実行計画の中にも、ふるさと文化財課の課題ということで入れさせてもらっているところでもあります。まずは国分寺市の歴史や文化に触れ、親しんでもらって、理解していただくといった機会の拡充が求められているということです。また、昭和31年から発掘を本格的に始めたということで、60周年となり、遺跡の調査もかなり行っております。出土品等の再整理、あるいは保管環境の改善といったものが今求められている大きな課題でもあります。また、3番目としては、「国分寺の魅力を活かせる文化財の活用」ということで、今後ICTの活用といった部分が必要になってくるかと思っております。

また、28年度の現状の取組みということで、「整備」の部門ですが、こちらは計画に基づいて、史跡武蔵国分寺跡の整備工事を行っております。今年度は、中門と鐘楼跡の平面表示、あるいは照明や植栽といったものもあわせて工事を行っている状況です。予定では、今年の3月3日が工期となっておりますが、状況によって、また内容等を確認いただければと思っております。「保存」に関しては、旧本多家住宅長屋門の保存修理工事を行っております。先日、1月29日の上棟式には、様々な方に参加をいただきましてありがとうございました。長屋門自体は、今年9月の完成を目指しております。完成後の平成30年4月からは、一般の方々に公開できればということで今、進めているところです。「公開活用」としては、国分寺市民の方々に文化財を愛していただくということで、文化財愛護ボランティア養成講座にも力を入れさせていただいております。校外学習であったり、昆虫標本の展示、あるいは史跡を表示したり、あとは市内、市外の文化財をめぐって、文化財の知識を高めていただくということでも様々な企画させていただいております。また、今後の2月12日になりますが、歴史講演会を実施し、去る今年度の10月には、おたかの道湧水園の入園者が10万人を達成いたしました。今年度はこういった行事の取り組みを行わせていただいております。

(4)「近隣市との連携事業」ということで、府中市との連携を行っております。観光振興連絡協議会による事業や、日本遺産の申請も、3年目ということで、今年度は行わせていただいております。日本遺産の申請については2月2日が文化庁の提出締め切りということで、東京都を通じて文化庁に提出させていただいております。また、坂戸市、鳩山町とも連携事業を行っているところです。

(5)「平成29年度の予定事業」です。「整備」の部門での大きいものは、2年間かかりますが、29年度は金堂の基壇整備を行うということです。「保存」に関しては、特に市の指定文化財ではありませんが、市内に眠っている文化財をくまなく調査していく総合文化財調査を行って参りたいと思っております。また「公開活用」としては、今後はICT技術の活用や解説版等の多言語化を現段階では考えさせていただいております。

整備に関しては、お示しをした資料1-1、1-2の部分となっております。資料1-3に関しては、政策経営課長に説明をお願いいたします。

○藤原政策経営課長 私から、「国分寺市ビジョン」について、簡単にご説明したいと思います。資料1-3の表紙をめくっていただきますと、「『国分寺市ビジョン』とは」という説明があります。「国分寺市ビジョン」とは、今まで基本構想と言っていたもので、市政を総合的、計画的に運営していくための構想であり、市長から説明のあったように、昨年12月に議会の議決を経て定めたものです。国分寺市ビジョンにおいては、未来のまちの姿として、「魅力あふれ ひとつがつながる 文化都市国分寺」というテーマを設定しました。「国分寺市ビジョン」につきましましては、8年後の平成36年度を目標年度として、未来のまちの姿に定める将来像に向けて、さま

ざまな施策を展開していきます。

この「未来のまちの姿」という将来像のもとに、分野別に都市像を設定していくという形になっており、次のページに図でお示しするとともに、具体的な解説については次のページにまたがって表記しています。

分野別の5つの都市像の一つとして、「『ひとと文化を育むまち』（子ども・学び・文化）」という都市像があります。この説明の中の2行目に、「国分寺の歴史と文化を感じられる環境の整備に努めていく」とありますように、この「ひとと文化を育むまち」という都市像の中に、これからご説明する歴史という施策も位置付けまして、具体的には実行計画という形で受けていきます。このように、大きな概念的なものは、基本構想（国分寺市ビジョン）の中で表記いたしまして、具体的な取り組みについては、「ビジョン実行計画」で取り組んでいくという構成になっているところ です。

ページをめくって下さい。3ページから4ページに掲げているまちづくりの基本理念は、「ともに進める」「ともに高める」「ともにつなげる」ということで、「国分寺市ビジョン」については、国分寺市の力だけではなく、国分寺市にかかわる全ての人々、また事業者等と力を合わせて、この未来のまちを実現していくという形で構成されているというところ です。

めくっていただきまして資料1-4です。先ほど申し上げましたとおり、この未来のまちの姿を実現していくために、どういう形で具体的な取り組みをしていくかは、実行計画に位置付けていきますが、その実行計画の1つとして「歴史」を示しております。この実行計画については、年度内に策定する予定で、現在、策定中の段階ですが、今日この議論をしていただくにあたって、参考としてお示しさせていただいているということです。各実行計画に関しては、ここに表記しているように、まず「目指す姿」という形で、その施策の目指す姿を表記しています。「歴史」については、ここに記載のとおり、「市民が様々な機会をとらえ、文化財に触れ親しみ理解を深めています。また、調査・研究をもとに、文化財の保存と整備、活用が進んでいます」ということを目指す姿として、その進捗をはかる指標として記載しているようなまちづくりの指標を設定しており、さらに、当該施策についてどのような現状があるのかといったことや、その課題はどのようなものがあるかといったことを記載しています。そして、ページをめくっていただくと、この施策について、先述したような現状、課題がある中で、施策の展開として、どのように取り組んでいくかという取組方針を記載しています。「歴史」の取組方針の中に、「史跡の保存・整備・活用の推進」といった方針がありますが、これがおそらく、今日、主にご議論いただく内容になってくるかなと思います。

次ページ以降は、「目指す姿」の実現のために、どういう事業を重点として取り組んでいくか、「目指す姿実現のための中心事業」ということで記載しています。ここでは、これまでのそれぞれの取組方針のもとに、現在はまだ事業費が「〇〇万円」という形で記載されておりますが、具体的にはどれくらいのお金をかけて、どういう事業に取り組んでいくのかということや、その進捗を図るそれぞれの指標について記載しています。これが「歴史」という施策の実行計画の内容になりますが、実行計画とビジョンを合わせて総合ビジョンという形でまとめていくこととし、ここに掲げているような内容で、合計36施策、それぞれの施策について、こういう実行計画の資料を作成して、まとめていくという形で現在進めている状況です。

○井澤市長 今、ふるさと文化財課長から、特に保存整備を中心に現状の説明がありました。また政策経営課長からは、国分寺市ビジョンに関わるころの、これからの方向性を含めて説明がありました。これらの資料に基づいてお話を申し上げましたが、資料についてのご質問、またご質疑があれば承りたいと思っております。ぜひ幅広くお話を賜ればありがたいと思っております。いかがでしょうか。

○富山委員長 漠然とした広い話になるのですが、国分寺市にあるたくさんの歴史遺産を活用して、その中で魅力ある国分寺市と考えたときに、私たちはごく当たり前に、あるものをあるというだけで見てしまいがちなところがあるかと自分自身思っ、それではいけないと思いました。

そういったときに、3つの視点をもう一度再認識し、または再自覚するというのでしょうか、あるいは再評価するというのでしょうか、そういうことが必要なと感じます。1つは、やはり1,300年前に国家鎮護の1つの方策として、各国に国分寺を建立するといったときに、東大寺をつくって、そして各国につくっていったわけですね。その時につくった武蔵国の国分寺は、その中で最大規模であったという点を、遺跡を認識する上で、もう一度きちんと確認する必要があるのかと思いました。

もう1つは、はっと思ったのですが、国分寺市は首都東京にあるのです。1,300年前の首都は奈良なのですね。単に事実関係なのですが、私が讃岐の国分寺にお邪魔したときに、資料館がありましたので、職員の方とお話をしていましたら、たまたまその時に武蔵国分寺でタモリさんのテレビの取材があったのです。そうしましたら、この地域ではみんな見えていますよと言うのです。讃岐の国分寺もやはり七重の塔があって規模が大きいのですが、武蔵国分寺を見ているというのは、首都東京にあるという地の利がやはりあるのかなと、手前みそですが思うのです。首都にある国分寺は、やはり地の利を活かすほうがいい。どうやって活かすかは難しいのですが。そういう意味では、武蔵国分寺は他の地域から見られているのは確かだと思いました。

もう1つ、国分寺を見たときに、私たちは修学旅行で中学生を奈良へ連れていきますと、正倉院がシルクロードの東の終点だとか、あるいは法隆寺や薬師寺で、葡萄唐草模様が仏様の蓮弁のところに鑄込んであるのですが、模様がくるくると回っているのがあります。これが終点の意味だということです。そこで武蔵国分寺の発掘調査で出てきた瓦を見ますと、葡萄唐草模様がちゃんとあるのです。今では講堂の東側のところにレリーフで入れてありますね。そうしますと、シルクロード、例えばウズベキスタンにしても、カザフスタンにしても、キルギスにしても、それから中国も西側のウイグル自治区の民族衣装を見ても、みんなほとんど間違いなく模様がくるくるになっていますね。そういう1万キロのシルクロードの歴史の東の終点の1つに武蔵国分寺があるのだという見方もできるのかなと思います。

言いたいのは、規模からしても、それから首都東京にあるという地の利にしても、それからグローバルな1万キロのユーラシアを見ても、すばらしい遺産がここにあるわけです。そういうものをもってして、まず冷静な目で見ていくことが必要なのかなと、今感じています。

○井澤市長 本当に我々は、当たり前のように思っていますが、今、讃岐のお話が出ましたが、そちらから見ても、やはり武蔵国の国分寺の大きさというか、貴重さというのは、「ブラタモリ」で紹介されたということもあるのかもしれませんが、評価を受けているということです。ですから、我々はずっとずっと、本来この国分寺市にあるそういう歴史遺産の魅力を高める必要があるのではないかと思います。市民の方はもちろん、市外の方も、これについてもっともっと魅力を感じてもらえるような努力を我々はしていかなければいけないのではないかと今、富山委員長の話を聞きながら感じたところです。

○松井教育長 今日の資料の1-1の最終ページに、「段階ごとの整備イメージ図」があって、平成30年度はこれぐらいのイメージ、32年度はこのような形で、最終がいつになるのかは書いていないのですが、整備の最終段階としては、このようなイメージまで歴史公園を整備していきたいということですね。

この後の「魅力あふれる」という話とつながっていきますが、こういう買収をして、歴史公園化していった、これで人が来て下さるだろうかということは、整備の仕方としては、ここどまりなのかという気もしないではない。もちろんこれだって、これから大変な時間がかかってやることだとは思いますが。史跡係長に伺いたいのですが、基壇までで上物が何もないですね。その辺がやはり、保存整備のその先を考えていくときに、ここどまりなのかということは市民も思っているのではないかと思いますし、それにはそれなりの事情があるのかもしれないのですが、その辺を伺ってもいいですか。

○依田史跡係長 今、松井教育長からお話がありました今後の整備計画の図案を3種類ほど、資料1-1の最後のページに掲げております。現在は一番上段の平成30年度完成イメージのとは

ろで、金堂、講堂、鐘楼、中門といったところの整備をしています。この将来的な整備イメージとしては、一番下段の平成14年度に策定をしました「新整備基本計画」に図案が示されておりますが、こちらはイラストをかなり縮小しておりますので見にくくなってはおりますが、この中で、お寺の入り口の中門、それと、現在平面表示の整備を進めている鐘楼、この2つの建物は、新整備基本計画の整備方針としては、上物を復元するという計画になっております。それから中門の両側に取り付く遮蔽施設として、具体的には築地塀がお寺の中心部を巡っておりますが、こちらの築地塀も実際の高さまで復元をするというような図案になっております。ここまで到達するのにあと何年かかるのかという気持ちが正直なところあります。なぜ、七重塔も含めて、本堂、講堂、上物を全て復元しないのかと申しますと、復元するための根拠が少ない建物については復元をしない。つまり鐘楼ですとか、中門というのは、奈良の東大寺、法隆寺に、現存する奈良時代の建造物がございまして、復元する上で参考となる事例があります。こちらについては、将来的には上物を復元して、実際に訪れた方々に、実物大の国分寺を体現していただくような装置を考えておりますが、現時点では、とりあえずはその真ん中のイラストにあるとおり、平面表示をとにかく全体で急ぎまして、武蔵国分寺の広さを平面的に表示して、訪れる方々に体感していただくことを最優先として、整備を進めているという状況がございまして、ですので、松井教育長がおっしゃってましたとおり、完成年次をあえて書いてございませませんが、将来的には一部の建物について上物の復元をして、訪れる方々に古代の国分寺の大きさを体感していただくような装置をつくっていくというビジョンは持っているというところですよ。

○松井教育長 その時に、七重塔については、わかっているわけですよ。現に国分寺市でも七重塔を再現したレプリカといいますか、10分の1の大きさのものは資料館の中にあたり、商工会の中にあたりしているわけなので、七重塔を再建することは根拠のある再建になってくる。金堂、講堂については、「プラタモリ」ではバーチャルで再現していました。そう考えると、お金のことを除けば、できなくもないのではないかという気はするのですが、その辺は、学術的にはどうなのですか。

○依田史跡係長 学術的に、七重塔がある程度の高さを誇っていた建物であるということは、裏付けはございます。先般、お正月休みの際に放送された、NHKの「歴史秘話ヒストリア」で東大寺の特集の回がございました。あそこにも、古代に書かれた古文書に、東大寺の七重塔が、高さ100メートルを誇る建物であったという古記録がありますので、実際それくらいの規模を持っていた建物が全国各地の国分寺にあったのだらうとは考えられます。あの番組の中で、史跡武蔵国分寺跡保存整備委員会でもお世話になっている藤井先生がご登場されておりましたが、上物を復元する具体的な建築像というのが、建築学の先生の中でもいろいろご意見が分かれていますので、今回、資料館の入り口で飾っている七重塔も、また1つの復元案でしかありません。ですので、1,300年前に国分寺に建っていた七重塔はこうだという確たるお示しができかねる状況がありますので、実物大の建物の復元には至っていないということになるかと思えます。

○松井教育長 そういう状況だということですね。

○井澤市長 要するに平面的な位置としては確定しているわけですね。

○依田史跡係長 今、柵で囲われた礎石があるところで、昭和40年に発掘調査が行われまして、そこに七重塔がかつて建っていた、火災があったということも証拠はつかめております。

○井澤市長 そうすると、現在のところはそこまでということですか。それ以上はまた、上物を建てるということは、今のお話からすると、計画の中には盛り込まれていないということではないのでしょうか。

○依田史跡係長 そのとおりです。

○井澤市長 シンボリックなものとして、市民の方からも七重塔を建てないのかという話が入ってくるのですが、そういう理由のようです。ほかによろしいですか。

○富山委員長 現物としての建物は根拠が少ないので、復元は難しいというお話は、文化財の保存整備は学術的なものでなくてはいけないということはよく分かるので、納得できるのですが、

現物ではなくて、バーチャルで、例えばスマホをかざすと、礎石のところに七重塔が出てくるようなものを実際に活用している市町村がありますね。ああいうバーチャルなものも、やはり根拠が少ないという部分においては、学術的に考えても価値はないものなのではないでしょうか。

○依田史跡係長 今、武蔵国分寺跡資料館でも活用させていただいております「プラタモリ」の画像ですが、あれは全く根拠がないかという、そうでもございません。ただ、今アプリを使った史跡の建物の復元をイメージできる装置が、全国各地の史跡でも運用されております。実際、史跡地に来られる方々が、現地でご覧いただけるのは、当時の礎石と瓦だけですので、訪れる方々の理解を助けるための観光ツールとしては、そういったものも今後、必要なのかなと思っております。

○井澤市長 議会等でもそういった要望も多く、意見として出されておまして、ARと云うのですが、そういうものをこれから考えていこうという方向性は出しております。

○戸塚委員 今のご説明で、実際にイメージとしてつくるのは難しいというのはわかりました。これは私の個人的な意見なのですが、バーチャルなものを単に画面で見ただけでなく、むしろ、ミニチュアの武蔵国分寺ができた当時の国分寺の建物自体ですとか、周りの様子や先ほどの七重塔ですとか、そういうものをミニチュアの模型のようにして、資料館に展示できるのであれば、イメージがよく湧いてよろしいのではないかと思います。私は墨田区にある江戸東京博物館が好きで、今まで何回も行ったことがあります。行かれた方はご存じだと思いますが、中に江戸時代の武家屋敷ですとか、まちの様子ですとか、そういったものが、ミニチュアの模型になっていて、小さい人形がたくさん置いてあって、江戸時代の様子をイメージするには非常に役立っています。あれを見ると、300年前、200年前ぐらいはこんな状態だったのだなということが、すごくイメージが湧くのです。ですから同じように武蔵国分寺跡についても、確かにこういうものだという定説はないかと思いますが、それはそういう注意書きをしておけばいいですから、イメージの1つの案として、武蔵国分寺ができた当時の様子を、お寺や塔を含めた、全体の様子を、バーチャルな画像だけではなく、立体的なものとして、資料館にもし展示ができるのであれば、いらっしゃる方にはわかりやすく非常に良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

○依田史跡係長 確かに委員がおっしゃるように、一昨年、府中市郷土の森博物館の常設展示がリニューアルされました。その中で、一番大きな売りは、古代武蔵国府の全体像が一目でわかるミニチュアの復元模型です。そこには行き交う馬や人々、竪穴住居に住んでいる人の住まいの様子などが、事細かにリアルに復元されていて、今、古代の地方を学ぶ上では非常によいテキストだということが博物館の世界で言われています。府中市ほどの規模ではありませんが、武蔵国分寺跡資料館にも、ちょうど今から30年ほど前に、国分寺駅が開業したことを記念して開催した展示でつくられたミニチュアの模型を展示しております。ですので、ミニチュア復元模型の作り方や博物館の展示技術は日進月歩で進歩しており、府中市や関連する博物館施設の事例を参考とさせていただきながら、武蔵国分寺跡資料館は作られてから30年経ちますので、一定程度リニューアルを図っていく必要があるかとは思っております。貴重なご意見ありがとうございます。

○井澤市長 お金のかかる話ですので、それを切り離しては考えられないのですが、戸塚委員からお話のあった江戸東京博物館に私も行きました。体験できるというような感じのものもありましたし、非常にすばらしいものだと思います。府中も、私も見させていただいていますが、立派なもので、あの規模のものができればいいと思っております。

今、展示されているものは30年経つのですね。あれで金はいくらかかったのでしょうか。30年前に幾らでつくったのかはわかりませんが、あの規模ではなくても、もう少しリニューアルできるようなものがあればいいと思います。

○松井教育長 今のご提案は本当に重要だと思うのです。今あるすばらしい模型は、紙が中心になってつくられていて、郷土史に非常に造形の深い田中氏が中心となってつくってくれたものだと思っています。今ご提案があったように、もう少し今の技術を使って作りかえることも意味があることだと思っています。なぜかという、今の子どもたちが資料館に行ったときに、昔

の僧寺や、国分寺や尼寺がどうだったのかをイメージすることは、バーチャルも大事ですが、模型を見るとということもすごく大事で、全ての小学校の子どもが資料館へ行ったときに、模型の周りに集まって、学芸員さんの説明を聞いて理解をしているということですね。どうですか。

○依田史跡係長 はい。

○松井教育長 本当に今のことについては、どうしてもこれから先を考えるとバーチャルのほうに行きがちですが、もう一回立ち返って、紙の模型を整備していく必要はあるのだろうと感じます。

○高橋委員 学校の子どもたちが国分寺の持っている史跡、財産をどのように理解していくのかというところで、模型の周りに集まって話を聞くということがありました。今、小中学校で、どのくらいの段階の子どもたちがどの程度、今既にいろいろ発信されている魅力を理解するチャンスが、学校を通してどれくらいあるのかを具体的に考えてみると、教育委員である私も知らないのです、教えてほしいのですが。

○井澤市長 例えば資料館を見に行く機会ですね。

○松浦学校指導課長 何年も前からですが、史跡武蔵国分寺跡公園周辺の校外学習推進授業ということで、市内の小学校在学中に、必ず1回は歴史公園に行ったり、史跡を見たりしましょうということをやってきました。一昨年から6年生でやりましょうということで、今現在は6年生が必ず行って、実際に模型を見せていただいて、昔の国分寺の様子を知ったり、それから様々な体験をしたりして、国分寺の歴史を学ぶという機会を持っております。

○高橋委員 資料1-4の3ページで、「学校教育としての文化財活用の推進」というのが「取組方針①」であり、現状値で12校となっておりますので、現状としては全校ではないですね。この辺は地の利が関係あるのかなとも思っておりますが、具体的にはどうでしょうか。

○高杉ふるさと文化財課長 この数ですが、小学校は学校指導課長がおっしゃるとおり全て来ております。あとは市内の公立中学校が来ているところと、あとは私立の中学校も来ているということで、現状12校ということです。小学校は10校、市内の公立で言うと中学校は1校来ています。

○井澤市長 ということは、中学校は私立を含めて2校ということでしょうか。

○高杉ふるさと文化財課長 そうなります。

○井澤市長 ということは、逆に言えば、私立が来ているのであれば、公立は5校のうち1校しか来ていないということですか。

○高杉ふるさと文化財課長 市内の公立中学校は1校来ておまして、小学校10校に公立中学校が1校、私立中学校が1校ということで、合計が12校ということです。

○井澤市長 公立中学校のあと4校については、そういった指導はしておらず、あくまで小学校6年生の10校だけは意識してやっているが、中学校については、そういうことは特にやっていないという認識でいいのですか。

○松浦学校指導課長 実際、中学校については、必ず資料館に行くというような指導はしておりません。やはり義務教育の間で1回は必ず行きましょうということで、小学校のちょうど歴史の学習のところで見学に行くということで1回体験していますので、中学校では、例えば歴史の授業等で行くというような特別な指導はしておりません。

○高橋委員 今日の議題の「魅力を高める」というところで、魅力を高めるといった場合に、どのくらいの前提知識を持っている人に対する魅力なのかということについてです。おそらく小学生、あるいは大人、国分寺市に住んでいる方と、国分寺市周辺の市外の方など、対象によっても何が魅力になってくるのかということとは違ってくると思います。小学校が全校来ていますが、もう行ったからいいよというのでは魅力がそこでおしまいになってしまいます。魅力の発信の仕方をさらに変えて、例えば先ほど富山委員長がおっしゃったようなことで、シルクロードの東というのは正倉院でもう終わりと、正倉院の御物などをいろいろ見たときに思っていたのですが、基壇のところの唐草模様によって、ここまでシルクロードが繋がっているという見方ができる

とのことでした。実際に中学生になって、自分の国の中だけを見るのではなく、非常に大きな視野の中で日本というものを捉えていく視点が出てきたときに、また違った発想の中で我が国分寺になぜこれがあるのだろうと思うと思います。多分出し方とか、あるいは指導の仕方などによっても、とても大きな視野が開かれるようなこともあると思いましたので、今日のこの「魅力高め」ということは、本当にやり方次第で非常に広がっていくし、奥行きが深いものになります。それから先ほど話がありました、なぜ東京の中でも、ここに国分寺がつくられたのか。今いる人たちにとっては、東京と言うと、まさに23区の中の江戸城があった辺りを中心に考えてしまうのですが、そうではなくて、ここが日本の中でも要の位置にあったといったようなことを膨らませていく示し方や、学芸員の方のお話の中での掘り下げ方は大変奥深いものだなということをも改めて痛感しておりますので、そのあたりを、またいろいろと工夫をお願いしたいと思います。

○井澤市長 例えばそういう形で、現地に子どもたちが行くのは、歴史の中の勉強として行くのですか。それとも郷土の、要するに国分寺の副読本があったりして、その中に入れていたりするのでしょうか。そういう教材から行くという感じなのですか。どういうことで小学校では進めているのでしょうか。

○松浦学校指導課長 実際に授業の中で、どこでこの見学をカウントするのかというところになると、またなかなか難しいところもあるのですが、小学校の場合には、行事として行っております。ただ、その勉強している内容については、ちょうど6年生だと日本の歴史を勉強しますので、ちょうど奈良時代あたりのところで行くと、より学習が深まり、興味も関心も高まるということになります。実際に国分寺市を学ぶとなると、3年生になります。ただ、3年生で見ると、6年生のほうが、いろいろなことを既に学んでおりますので、学習が深まるのではないかと、以前は3年生で行く学校もあったのですが、今現在は6年生で統一するという形をとっております。

○井澤市長 わかりました。ほかの委員の方。佐久間委員、どうですか。

○佐久間委員 少し話が変わります。先ほど史跡がテレビで紹介されてというお話がありました。またこの実行計画の1ページの中で、主な課題の上の部分に、テレビの撮影や雑誌の取材を受けて、情報発信を市でもされているということで先ほどお話を伺ったところですが、それに関連してお伺いしたいことがあります。情報提供の1つの方法として、フィルムコミッションというものがあると聞いたことがあります。フィルムコミッションというのは、映画やドラマ、CMなどのロケ地の情報を積極的に提供したり、エキストラなど、市民に協力を求めるということも含めて、撮影の支援をすることでロケ撮影を誘致して、まちの魅力を発信し、地域の活性化を行っていく組織ということです。自治体や観光協会の中にそういう組織を設けているところが随分あるようです。インターネットで調べましたら、近隣でも、八王子、国立、三鷹、武蔵野市などで取り組んでいるようです。国分寺市ではそのような情報発信の仕方を検討されたことはありますか。

○井澤市長 以前から、ロケーションボックスは随分やっていますよね。

○島崎市政戦略室長 国分寺市におきましては、ロケーションボックスということで紹介をさせていただいております。また、「ブラタモリ」もそうですが、その他いろいろな情報を旅番組等でも取り上げていただけるように、テレビ局等に働きかけ、声かけをさせていただいているところです。今後はより大きく取り上げていただけるようにどんどんPRをしていきたいと思っております。エキストラ等という話もありますが、こちらにつきましても、今現在は、そこまでは具体的にはなっておりませんが、国分寺市民の方に愛されるということもありますので、こちらについても今後は進めていきたいと考えております。

○佐久間委員 そうしますと、例えばインターネットでロケーションボックスと検索すると、国分寺市は出てくるのでしょうか。

○島崎市政戦略室長 ロケーションボックスとして、国分寺市にはこういうところがありますよというPRについては、ホームページに載せさせていただいております。

○井澤市長 実績として、どれくらい今まで問い合わせ等があるのですか。

○島崎市政戦略室長 実際に撮影に至ったというところではなく、問い合わせというところであれば、1日に2本程度のお問い合わせ等がございます。それでいろいろなところを紹介させていただいたり、あとは先方の要望をお聞きして、実際にそういう場所があるかないかもお返事をさせていただいたりしております。実際には、そのうち放映等につながったというのは、年間40本くらいです。

○佐久間委員 年間40本もロケーションボックスの関係で撮影がされているということはすばらしいことだなと思っております。けれども、マスコミに携わっている人に話を聞いたところでは、フィルムコミッションを、まずインターネットで検索すると、それに取り組んでいる各市の名前がポンポンと出てくるのです。取材や番組制作に関して全面的に協力をしてもらえるということで、そこに頼むことが楽というか、番組作りがよりやりやすく進んでいくということで利用することが多いと聞いたので、検索したときに、ポンと国分寺市の名前が出てくるようであるといいかと思えます。

○井澤市長 それは場所の提供だけではなく、要はそういう人材の提供も含めてですね。

○佐久間委員 全面的にですね。

○井澤市長 全てにアシストするということですか。

○佐久間委員 はい。ですので、整備していくとしたら、人手も要るし、お金もかかる話かなとは思いますが。

○井澤市長 その点も含めて、ちょっと研究してもらえますか。

○島崎市政戦略室長 はい。

○井澤市長 保存・整備からいろいろ話が、委員の皆様から活用や、現状の活用されている姿という質問が出てまいりましたが、本日の表題は、「高める取組について」ということですので、今のお話の中にも含まれておりますが、またさらに、こんなことをやったらいいのではないかというご意見があったらお願いしたいと思えます。

○富山委員長 幾つかあります。閑話休題のような感じになってしまうのですが、今でも青梅線で奥多摩の方に行くと、昔ながらのJRの駅には、例えば塩船観音まで西北に1キロといったように、その駅の名所旧跡の案内が、駅のホームの真ん前にあるのです。最近、中央線を見ますと、そういう標識がだんだん少なくなっているような気がします。例えば西国分寺駅だったら、「天平の何々まで、下車南へ5分」といったものをJRさんに付けて欲しいとお願いすることは難しいですか。

○佐久間委員 私も駅を降りて、初めて訪れた方がどうやって行ったらいいかということは、わかりやすい方がいいだろうと思ひ、いつも漠然と通っているものですから、どのようになっているか下見をしてきました。そうしましたら、西国分寺駅ですと、観光協会設置の観光案内はあるのです。ただ、それがちょっと見えにくい場所にあつて、改札を出て南口のほうへ行くと、左手にあつて、シュークリーム屋さんの手前の壁がへこんだところに入っているのです。ちょうど気づかずに通り過ぎてしまうようなところに1つあります。あとはぶんバスの「万葉・けやきルート」が開設されたのですが、そのバス乗り場の案内がちょっと見当たらず、それもバス停がちょっと離れているところにありますので、どうやってそこまで行ったらいいかということはなかなかわからないのではないかとすることがありまして、私も今日それを質問しようと思っていたのです。

国分寺駅を見ますと、ぶんバス「万葉・けやきルート」の案内についてはあるのですが、観光案内は見当たらずでした。ですので、もしこれから整備されるようでしたら、観光案内とぶんバスの案内、それからバス停の位置の説明、あとは、もしできるのであれば、観光マップとして、「歴史・観光マップ」がありますよね。あれもセットで目立つところに置いてあるといいかなと思ひました。

○井澤市長 今、国分寺駅周辺の整備をしている最中ですが、東西の自由通路のところの一部、

そういう観光に関する案内を置こうかというような検討もしています。それと観光案内板については、少しここで整備しようということになっています。今の段階での状況を話していただけますか。

○島崎市政戦略室長 案内板については、今、予算計上をさせていただいているところですが、西国分寺駅、史跡、それから国分寺駅をめぐる案内看板については、ここからどこまで何キロという看板を20基設置したいと考えています。こちらは来年度実施したいと思っています。それから国分寺駅の案内板ですが、交番の東側に目立ちませんが、実はあるのです。目立たないということは、それは役に立っていませんので、こちらでも西国分寺駅と合わせて見直し等をしていきたいと思っています。それから駅の中の看板になると、JR、あるいは西武鉄道と協議をさせていただく必要があると思いますので、研究ということで、市政戦略室で対応したいと思います。

あと、観光マップについては、今ある「歴史・観光マップ」がそろそろなくなる時期ということもあります。また、国分寺市の紹介をしたいということもありますので、来年度、これも予算計上の段階ですが、5万部新たにつくろうということで準備を進めているところです。

○井澤市長 まだ議会はこれからで、予算の段階ですので、まだ確定的なことは申し上げられませんが、今こんなことを考えているというような状況にはあります。ただ、見えにくいものはやはり考えていかないといけませんね。

○高橋委員 今のこととほとんど重なるのですが、どのように観光しようかと思ったときに、国分寺市のホームページを、参考にできるかなと私も見てきました。結構いろいろダウンロードできますとなっているのですが、いわゆるダウンロードをしなくても、その現物はどこで手に入るのかということがわかりませんでした。だから、ダウンロードして、自分でプリントアウトしてなどということは、あらかじめ計画的に国分寺へ行こうとしてやるのだったらいいのですが、例えば国分寺駅や、西国分寺駅で、ちょうど3時間や4時間、うまく時間が空いて、いろいろと何か遺跡があるらしいから行ってみようというときに、例えば3時間ならどこそこか、国分寺駅からどう行って、また戻ってくるのは、こんなコースがありますよというようなものが手軽に情報として手に入るといいなと思います。特に、この魅力を高めて、その魅力を、単にこちらの思いで高めるだけではなく、当然高めた魅力を実際に受け取ってもらう人が必要だと思うのですが、それが国分寺市にいる方ももちろんですが、近隣の方たちをどうやって引き寄せるのか。それからちょっと時間が空いたから、気になっていたところへ行ってみようというようなときに、どこに行けばわかるのでしょうか。これは北口の再開発が終われば、その場所であるということもあると思うのですが、そこもちょっと駅からは離れますかね。いずれにしても簡単なマップがどうやったら手に入るのかなと思います。あとは観光協会の観光案内所は国分寺市のどこにあるのですか。戸倉の市役所のほうですか。そこまではとても行かれないですね。どこにあるのかがわかりません。私が調べた地図で出てきたのは戸倉の市役所のところです。

○井澤市長 観光協会の場所と、あとは市役所の関係で観光に関するような窓口はどこですかということですね。

○高橋委員 そうですね。窓口のほうがもっとわかりやすいと思います。

○島崎市政戦略室長 観光協会の事務局は、市政戦略室になります。観光案内所と言える特段のところは今現在ありませんが、その機能として、市政戦略室の窓口で観光の諸々の事務、それから案内をさせていただいているということになります。観光マップにつきましては、市の公共施設に置かせていただいております、あとは東京都の協力をいただきまして、殿ヶ谷戸庭園ですとか、そういう施設には置かせていただいております。どこにあるかということも、ご指摘いただいたとおり、わかりづらいかと思っておりますので、その辺も考えて改善していきたいと思っています。

○井澤市長 今いただいた意見は、要するに手軽に、ちょっと思いついたときに、そういうものが入手できないと意味がないと思うのです。だからさっきも言ったように、北口の再開発を行うときに、通路のところに小さなスペースですけど、そこで少しそういうものを考えたり、それから国立では高架下に置いたり、西国分寺はどこに置くのか、そのあたりも含めて、駅の乗降を

する方の目につくような感じで置くようなことを考えていったらいいのではないかと思いますし、確かに分かりにくいかもしれないので、場合によってはJRに少しご相談して、今みたいなことを実現できるように考えていただければと思います。

史跡の整備のほうは順調に進んでおりまして、本当に前から比べると随分、基壇の整備、それから周辺の整備によって、また長屋門の整備等も加わっていますので、そちらの方は進んでいるのですが、それを見せるやり方というのをもっともっと考えていかないといけないだろう。そういう意味では活かすということが必要だし、ここでまた松井教育長から手が挙がっていますので、日本遺産も絡めてお話をお願いします。

○松井教育長 そうですね。今の話でも保存整備から活用の話になってきているわけですが、先ほど担当課長からも日本遺産の申請をしたという話がありました。今回の申請のタイトルは、「私を古代に連れてって フリーウェイがいざなう 1,300年の武蔵国の物語」というタイトルなのです。フリーウェイがいざなうという、フリーウェイは実は東山道武蔵路を指しているわけですが、ここでの議論もそうでしたが、案外、東山道武蔵路という国指定史跡が、あまりクローズアップされていないのかなという心配を持っていて、それをしないといけないのが教育委員会なのです。やはり今度できた都立多摩図書館の前であって、本当に長くて、保存整備し、路面標示もしている、側溝の表示もしている、あの東山道武蔵路跡の活用というのが、まだまだ十分でなかったなという反省をしているところでもあります。あそこをやはり、日本遺産のタイトルにもしたぐらいですから、今後どのように市の魅力の1つとして発信していくのかということとは大きな課題だなと思っています。そのようなことも議論していただけたらありがたいと思います。

○井澤市長 そうですね。総合教育会議自体が教育委員会だけではなくて、市長部局も入って、こういう形で情報交換できるわけですから、そういう意味でいけば、教育長から、教育委員会がというお話がありました。市長部局としても、もっともっと努力しないといけないと思っています。やはり訪れてくださる方や市民の方の視線に立つというか、その立場に立って考えていく必要があるのだと思います。我々はこうやって設置しましたから、あとは見てくださるのではなく、どうやったら見やすくて親しみやすいか、簡単に行けるかをこれから考えていかなければいけないと思います。

今、日本遺産のお話が出ました。日本遺産について、概要だけ少しお話しいただけますか。今回の申請の内容の概略を話してもらって、どういう魅力を伝えたいのか、どのような形で申請したのかといったことを、かいつまんで話してください。

○高杉ふるさと文化財課長 先ほど教育長からお話のありましたタイトルであります。「私を古代に連れてって フリーウェイがいざなう 1,300年の武蔵国の物語」ということで申請をさせてもらっています。これは国分寺市と府中市の2市で連携をして、シリアル型ということで申請をさせていただいているものです。2月2日が文化庁への締め切りということで申請をさせていただいております。

ストーリーの概要ということで、申請用紙を少し読み上げさせていただきたいと思うのですが、「古代の武蔵国は関東地方における交通の要衝で、現代の高速道路（フリーウェイ）にあたる東山道と東海道を繋ぐバイパスが通過し、1,300年前の奈良時代には道路に沿って国府・国分寺が置かれた。両者は一体的な都市計画の思想のもと、マチづくりが進み、関東の中心都市として発展した。現在の東京の礎となった古代のマチの痕跡が、道や寺社、信仰、祭りに受け継がれ、私たちに古代の魅力を伝えてくれるまち、それが武蔵国の国府・国分寺である」ということでストーリーの概略をまとめさせていただいています。実際の、ストーリーは、西国分寺駅を降りて最初にビルの中から突然300メートルにもなる広い大きな道が現われるということで、そこから武蔵国分寺に向かって歩いていくような形で緑が広がって、ここは昔、そういった四神相應の地ということで国分寺ができた。その国分寺の東山道を進んでいく中で、実際には国府のほうに行くというストーリーで、国府があつて、国分寺があつて、尼寺もあつて、東山道があるとい

う、こういったところが全国で四点セットになっているところは武蔵の国分寺しかないということで、ここを全面的に押し出して、なおかつ時代を古代に絞って申請をさせていただいております。概略としては以上になります。

○井澤市長 壮大な古代ロマンの行政財産がありますので、そういう意味で、単に国分寺があったということだけではなく、やはりこの地が非常に魅力的な地であったし、中心となるべき要素を持っていた土地であると言えるのではないかと考えています。

○高橋委員 今のお話を聞きますと、都立多摩図書館ができ、国分寺市民も相当数活用していくと思いますが、都内のさまざまな地域から、まず多摩図書館に来た人を、絶対逃さず、今度は国分寺のこの魅力をいざなう道へ連れていこうということで、ちょうど、まさに現物の道も見えてきますね。何でこんな広い道がここにあるのというところから、その次にちゃんと古代へいざなうようないろいろな仕掛けがこれからできそうな気がします。

今までと比べますと、国分寺市以外の方がたくさん訪れるチャンスが、多摩図書館ができたことで非常に増えてくると思うのです。その人たちにも国分寺市の魅力を伝え、学んでもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

それから先日、多摩図書館の内覧会に行きまして、都内のさまざまな地区、市の情報がたくさんありました。国分寺市のところものぞきましたら、ほんのわずかしき資料がなくて、これしか置いていないのかと思ったのですが、ほかの資料がなくなってしまうと、たまたま残った1種類だったような気がします。あそこに資料を置くにあたっては、多分相当数予算化をして、たくさんの方のリーフレットを用意しておかないと、あつという間にはけそうな感触がありました。うれしい思いと同時に、市の職員の方たちとしてもたくさんいらっしゃる方へ、お応えするのが、うれしい悲鳴と大変になってくるという思いと、両方あると思いますが、いずれにしても、アピールするいい機会ですね。楽しみにしております。

○井澤市長 まさに市政戦略室というのはまちの魅力発信の担当部署として新設された部署ですので、ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

今お話にありましたが、国分寺市を訪れて下さる方が増えてくるのです。今、国分寺市はいろいろな機会があり、いろいろな仕掛けができていくと思うのです。多摩図書館もそうです。また2020年にはオリンピック・パラリンピックがある。それを、何かまた国分寺市の活性化や、それから観光客の増加につなげていきたいということもあるのですが、スポーツ振興課長、今の段階で何かオリ・パラの関係で少し国分寺市の魅力のために市外から呼び込むような施策はあるのですか。

○千葉スポーツ振興課長 まずオリンピック・パラリンピックに向けて、市の魅力を発信していくというものと、スポーツを推進するものと合わせて魅力発信を考えさせていただきたいと考えております。まず、魅力発信の点では、内部で色々検討いたしまして、市の魅力を発信しつつ、スポーツを推進するような形のスポーツイベントや、何かのイベントの際にはスポーツを入れたり、もしくはスポーツイベントをしているときに、市政戦略室等と協力したり、現在はフラッグツアーの関係で教育委員会にもかなりご協力をいただいて、いろいろなところでスポーツと市の魅力を発信しながら進めていきたいという考えで、今進めているところです。

○井澤市長 東京都も、今回のオリンピックについては、スポーツだけではなくて、日本の文化も世界に紹介していこう、ということです。

○宮本文化と人権課長 今お話しいただいた部分では、文化も今回のオリンピックでは非常に大きいということで、現在、第2次の文化振興計画を策定しております。今年度、それが最終の大詰めに入っています。それができた段階で、平成29年度からの計画として位置付けをさせていただいております。教育部の皆さんにも入っていただいております。さまざまな施策があり、特に歴史文化、それ以外にも社会文化、環境文化、芸術文化という形で進めておりますので、その中で、幅広く文化の発信ができればいいと考えています。

○井澤市長 今日のお話は、やはり横断的に取り組んでいかないといけないと思うのです。国

分寺市の魅力は、歴史もそうだし、科学もそうだし、いろいろな意味で増してきていると思うのです。特に我々が固有に持っている歴史遺産というのは、中でも最も重要なものであらうと思っていますし、今年度はちょうど遺跡発掘から60周年です。そういうこともあるので、これについては、よりまた力を入れていかなければいけないし、教育委員会と市長部局が一体となって、これは進めていかななくてはいけないことだと思っています。それで、もう少しご意見を頂戴して最終まとめにしたいと思うのですが、何かありますか。

○戸塚委員　　ちょっと話題がそれるのですが、「天平メニュー・国分寺ごはん」というのが『じゃらん』の写真で写っていますが、これはどこかに行けば、常時食べられるようになっているのでしょうか。

○島崎市政戦略室長　「天平メニュー・国分寺ごはん」につきましては、今、健康推進課が積極的にPRを行っているところです。こちらを随時提供しているお店は現在ございません。健康推進課ではこういうレシピがあるということでPRを行っております。イベントでは、国分寺メニューを提供するというお店がございます。今年度で言いますと、1店舗ですが、セレオの中のお店で、期間限定でお出ししたということがございます。ですので、常時食べられるというところは現在ございません。

○中島学務課長　　学校給食において、小学校においても中学校においても、天平メニューという名称を使いまして、子どもたちに給食の提供をしております。セットでは、11月に各学校に必ず出しております。またそれぞれ、汁物だけ、鶏肉だけという形では、ほかの月にも、子どもたちに説明しながら提供しているところです。

○戸塚委員　　そうしますと、常時「天平メニュー・国分寺ごはん」を出している店がないということですので、それだと、せっかく専門の栄養士の方が考案されたメニューですから何かもったいないという気がするので、例えば国分寺のセレオの中のどこか1店舗、あるいはセレオの1階に、国分寺市の物産を展示するようなスペースが新しくできたと思うのですが、あのあたりを使って、例えば簡単なイトインのスペースみたいなものをつくって、そこで常時食べられるようにできると何かPRになるのではないかと思います。せっかく国分寺市まで、外部の方がいらしゃったのであれば、では記念に食べてみようかという気が起きないわけでもないと思いますし、あとは先ほど話が出ている都立多摩図書館の中のどこかでそういう店を出してもらえ、あるいはお弁当として何か売らせてもらえるようなことができれば、非常にPRになっていいのではないかと思います。

○島崎市政戦略室長　天平メニューにつきましては、以前、おたカフェにお願いをしたことがあります。そのときにいただいたご回答というのが、作るのにすごく手間がかかること、それから味については、現代人に合う味つけがなかなか難しいというお話をいただいて、その時はできないというご回答でした。今回資料に載せさせていただいているのは、まさにご意見いただいたとおり、今後の方向性ということで、これはやっていきたいということで示させていただいています。こちらにつきましては、今後の課題として、提供できればと考えてございます。

○井澤市長　　ホームページにレシピを出して、家庭で作って下さいということでしょうか。

○島崎市政戦略室長　　今の取り組みというのが、市長のおっしゃられたとおり、自宅で作っていただきたいというものです。ここに載せさせていただいているのは、今後、魅力の1つとして、この天平メニューが食べられるように目指していきたいという考えです。

○佐久間委員　　私も歴史遺産を活かした魅力のある企画について考えてきたのですが、それを今、お話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

国分寺市ビジョンに描かれているのは、歴史や文化の伝統を受け継ぎながら活かしつつ、住む人々が健康で活躍できるまちを目指すことで、まち全体として発展していく姿というものが描かれているのかと思います。そのように理解しました。国分寺市ビジョンの趣旨に添いながら、歴史遺産を活用し、多くの人にその魅力を知ってもらう方法、さらにその魅力に触れてもらうことで、学び、楽しみ、生活にも活かしてもらう方法を考える中で、思いつきましたことを幾つか提

案させていただきたいと思います。

これからお話しすることは、一体お金が幾らかかるのか、実現可能なのかということについては、申しわけないのですが、調べておりません。お鷹の道や史跡公園、また東山道でこんなことができたらいいなという発想ですということをあらかじめお断りさせていただきたいと思います。

幅広い世代の多くの人に知ってもらうきっかけとして、テレビや新聞で紹介されたり、SNSに載せたいくなるような話題性が生まれそうな企画を4つほど考えましたので、要点を絞ってお話しします。

1つ目は、「あの人と巡ろう ときめき国分寺史跡散歩」という表題をつけました。まずは今注目の俳優やタレントさんに史跡のモデルコースを巡ってもらい、感想や気づいたことなど、歩きながら自由にお話ししている声をまず録音させてもらいます。タレントさんというのは、例えばア行で言いますと綾野剛さんとか、綾小路きみまろさんとか、有村架純さんとか、人気者の方に出させていただくといいのかなと思っております。第2段階として、その音声を訪れた方がヘッドホンで聞きながら、同じコースを、同じ歩調で歩くと、一緒に歩いている気分を味わってもらえるというものです。そのヘッドホンをどうするかと言いますと、戻ってきて、ヘッドホンを返す時に、俳優やタレントさんのパネルと、一緒に写真撮影をすることができます。そのように写真撮影したものは、SNSにアップしたりして自慢ができるというようにするとおもしろいのではないかと思います。他では多分まだどこもやっていないのではないかと思いますので、話題を呼ぶのではないかと思います。

2つ目は「漫画をお供に出かけよう わくわく国分寺史跡探検」です。これは、国分寺市には、充実したガイドブックで「国分寺歴史観光マップ」や「見学ガイド武蔵国分寺の話」というのがあります。それらをもとに、先ほど国分寺市の歴史を学ぶのが小学3年生だと伺いましたので、3年生ぐらいから読めるような漫画でガイドブックを作る。その漫画の内容は、わかりやすくおもしろい、しかも学べて品のよい漫画がよいと思います。子どもたちや、自分は歴史には興味がないと思っている方にも楽しんで興味を持ってもらえるものになるのではないかと思います。

3つ目は、「あなたも雅な天平人 天平衣食でタイムスリップ」です。これは天平衣装を用意して、それを着てもらって過ごしてもらおうというものです。例えば室内だったり、食事のみでよい方と、それを着て史跡散策したい方は、レンタル料をちょっと変えるようにした方がいいかと思いますが、先ほど戸塚委員からもお話があって、天平メニューを整えていきたいとおっしゃっていただいたので、ぜひそれをお昼ごはんとして「天平メニュー・国分寺ごはん」が常時食べられるようにしてもらおうと思います。そこでまた、せっかくきれいな天平衣装を着たので、写真を撮ってSNSにアップして自慢できるようにする。それはスペースが必要なもので、できれば新たなお店で、そういうことができたらいいなと思います。美しい衣装を着て、健康によい食事、天平気分まで味わえるということで、一石三鳥間違いなしだと思います。

最後、4番目の企画としては、「クリエイター大集合 国分寺の歴史遺産ストーリー」。これは国分寺の歴史遺産をテーマにした小説、詩、漫画というジャンルで書いていただいて、市民の方に募集して出してもらいます。そうしたときに、テーマが歴史遺産ということなので、作成にあたっては、史跡めぐりや資料館の見学を勧めたり、あとは資料提供を行って、勉強してから書いてもらう。作品が集まってきて、優秀作品があれば、それをまとめて国分寺まちおこしマガジンというのを発行します。そうしますと形に残っていくと思います。これがまた軌道に乗ってきたら、映像部門は難しいのですが、音楽、映画、舞踊など、DVD化もあり得るかと思います。これは国分寺市内の学生や主婦、退職した方などにとっても活躍の機会、生活に張り合いが出る企画ではないかと思います。国分寺ゆかりのプロの作家さんがいらっしゃいますので、例えばにしこくんの作家さんや、エックス山を題材にした、『放課後はミステリーとともに』を書かれた作家さんなどにも協力していただくと、さらにそのマガジンは充実したものになるかなと思います。

すみません、以上4件、企画を思いついたのですが、これは本当にお金も実現可能かもわからないのですが、提案させていただきました。いずれもメディアに取り上げてもらうなど、市内外へのPRに力を入れて、盛り上げていくことが大切かなと思います。

○井澤市長 ありがとうございます。すばらしい提案です。聞いている限りではお金もそんなにかかりそうもないです。

○松井教育長 今の様々なご提案について、大いに市の行政に活かせるところがたくさんあるなどと思って聞いていたのですが、実は日本遺産を申請するときに、もし認定されたら、その遺産をどのように活用してまちを活性化するのかというプランも一緒に出すということになっているのです。その部分で随分参考になるいいお話を頂戴したわけです。今のような、すごい発想ほどではないのですが、ふるさと文化財課の増本係長がその辺をまとめて日本遺産の申請の中に、書いていますので、今日はまだ発言しておらず、せっかくの機会なので、増本係長からも、どんなことを今考えて申請をしているかということだけご紹介ください。

○増本文化財普及担当係長 ただいま佐久間委員からご提案がありました1から4のご提案に関しまして、3つ目の「あなたも雅な天平人」に関しましては、2月18日と28日に、まず府中市との観光振興連絡会のイベントとして、試験的な部分もあるのですが、外国人の方にモニターツアーに参加いただきまして、天平の衣装を着て、まちの中を、特にお鷹の道から史跡、歴史公園のあたりを歩いていただき、写真を撮るといようなことについては既に企画がございます。

今、教育長からお話があった、日本遺産を申請して、認定された場合の地域活性化計画の中には、そういったさまざまなイベントを通して、本当に多くの国分寺市の歴史遺産を広く発信できたらといったことを検討させていただきました。富山委員長からもお話がありましたように、私たちは歴史遺産について、1,300年前だけではなく、本当に旧石器時代からの大きな遺産をお預かりしているといったところで、文化財普及の担当としては、その大きなバトンをどういった形でまた後世につないでいくのが課題の1つと捉えております。そういった中で、この日本遺産という国策の1つを、基礎自治体としてどのように活用できるのかといったところは、1年目、2年目、3年目といった形で、徐々に私たち自身が、市民の皆さんにもご協力いただきながら展開していきたいと考えております。そういった点では、平成16年度から取り組んでおります文化財愛護ボランティアについては、今年度は25名の方を認定させていただきました。やはり市民目線で史跡のよさを発信していただくということもあります。また、今後につきましても、交通のインフラを整備していくといったことでは、既にコミュニティバスが史跡地のほうまで延びてまいりました。プラスアルファとしてレンタサイクルの活用ですとか、ウォーキングできる整備といったところも関連部署と連携を取りながら進めていきたいと考えております。

そういったところで、先ほど高橋委員や戸塚委員からもご提案いただきましたご意見を、私たちだけではなく、さらに地域の企業の皆様、民間の皆様もぜひ一緒になって、協働で取り組んでいけたらと考えておりますので、そういったところも、また認定の可否にかかわらず、しっかりご報告をさせていただくような段が参りましたら、お話しをさせていただければと思っておりますので、あわせてよろしく申し上げます。

○井澤市長 日本遺産の申請はしていますが、まだ認定されるかは分かりません。認定の有無にかかわらずという話ではありますが、いろいろな施策を考えていますので、実現に向けて協力していきたいと思っています。

たくさんご意見を頂戴しまして、本当に貴重なご意見をいただきました。ほかに何か、やはりこれだけは言っておきたいというようなものがありましたら、委員の方どうぞ。

一応出尽くしましたでしょうか。本当に夢は広がりますし、それからこれだけの財産を国分寺市としていただいているわけですので、ぜひ主要な国分寺市の魅力ということで、今後、整備・保存と同時に活用、そしてまた観光に活かしていく、それがまたまちの魅力につながっていくという連鎖を作っていきたいなどと思っていますので、今日ご提案させていただいた「国分寺市の魅力を高める取組」ということの大きな柱として、歴史遺産を今後とも進めてまいりたいと思っ

いるところでございます。

お時間も経過いたしましたので、この辺で今日は閉じさせていただきますが、本当に今申し上げましたように、大変貴重なご意見を様々いただきました。これから8年間の国分寺市ビジョン、国分寺市総合ビジョンを運営していくわけですが、その1つとして、歴史遺産を活かした国分寺市の魅力づくり、そしてまた、魅力だけではなく、それが市民同士を結びつける材料にもなっていく。そういう意味でいけば、タイトルに挙げた「ひとつつながる」というところにもつながっていくかなと思っていますし、もちろん最後の「文化都市国分寺」の総仕上げにつながっていくのではないかと考えていますので、日本で唯一、自治体の名前として国分寺を抱えているこの国分寺市はこれからより発展していくはずですし、させていかなければいけないと思っていますので、今日いろいろご議論いただきましたことを参考にさせていただいて、これからしっかりと市長部局と教育委員会が手を取り合って、全庁一丸となって、これに向かって頑張りたいと思っています。今日は本当に素晴らしいご意見をいただきましてありがとうございました。充実した時間でした。本当にありがとうございました。これで本日は閉じたいと思います。よろしく願いいたします。

3 その他

○井澤市長　それでは、事務局から何かありますか。

○事務局　特にございません。

○井澤市長　それでは第2回総合教育会議を閉会とさせていただきます。大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

午後3時40分閉会